

平成26年11月20日
文部科学省国際統括官付

ESDに関するユネスコ世界会議の開催結果について

1. 参加国・閣僚者数等

1) 愛知・名古屋（11月10日（月）～12日（水））

○正式参加者：150か国・地域、1,000名以上

○閣僚級76名（大臣：52名、その他：24名）

○併催イベント：約900名

2) 岡山（11月4日（火）～8日（土））

○ステークホルダー会合

（Studentフォーラム、教員フォーラム、ユネスコスクール全国大会、ユース・コンファレンス等）

参加者：約1,800名



閣僚級会合及び全体の取りまとめ会合（於 愛知・名古屋）

2. 世界会議における成果

1) 採択された各種宣言

『あいち・なごや宣言』

（別紙1）

同宣言のポイントは次のとおり。

- ① G A Pの五つの優先行動分野におけるモニタリング及び評価の方法を強化すること。
- ② ユースをキーとなるステークホルダーとして巻き込むこと。
- ③ ユネスコ加盟国の政府は、教育政策とカリキュラムがどの程度ESDのゴールを達成しているかを評価し、教育、訓練、職能開発に十分にESDを取り入れること。

- ④ G A P の五つの優先行動分野に沿った政策を行動に移すために実質的な資源を配分、集結すること。
- ⑤ ユネスコ世界会議の成果を、ポスト 2015 年アジェンダに反映すること。

『E S D 推進のためのユネスコスクール宣言』

(ユネスコスクール岡山宣言) (別紙 2)

日本のユネスコスクールとして、今後、地域の人々等との協働、国内外のユネスコスクールとの交流、ユネスコスクールの全国ネットワークをつくること等を宣言するとともに、学校による更なる E S D の推進に向け、ユネスコスクールからの提言をまとめたもの。

『ユース・ステートメント』 (別紙 3)

今後の E S D の推進に向けて、ユースとしてやるべきこと、また、ユースの参加促進に向けて必要なことをまとめたもの。

『ユネスコスクール世界大会 Student(高校生)フォーラム 共同宣言』 (別紙 4)

高校生の立場から E S D について発信していくこと、地球に生きる一員としての自覚を持つこと、個人の明確な目標を明らかにすること等を宣言したもの。

- 2) 「国連 E S D の 10 年」の後継プログラムである「グローバル・アクション・プログラム」(G A P) 開始の正式発表
- 3) 「ユネスコ／日本 E S D 賞」創設の正式発表

G A P の具体的な実施を促進するため、E S D への若者の参加の支援、E S D への地域コミュニティの参加の促進など G A P の 5 つの優先行動分野のうち、一つ以上の分野で活発に活動している個人又は団体を表彰する。(1 件当たり 5 万米ドル。毎年 3 件を表彰。)

3. その他

世界会議終了翌日の 11 月 13 日(木)には、フォローアップ会合を開催。学校関係者、N G O / N P O、企業、その他多様なステークホルダーに世界会議の成果をユネスコから報告するとともに、2015 年以降の国内における E S D の推進方策について議論した。同会合には 300 名以上の参加者があった。

持続可能な開発のための教育(ESD)に関するユネスコ世界会議 UNESCO World Conference on Education for Sustainable Development (ESD)



United Nations
Educational, Scientific and
Cultural Organization



Education for Sustainable Development 2014
World Conference, Aichi-Nagoya (Japan), 10-12 November
Stakeholder Meetings, Okayama (Japan), 4-8 November



岡山市



ESD 愛知県名古屋市

ステークホルダー会合 11月4日(火)～11月8日(土)

ユネスコスクール世界大会

Studentフォーラム

参加者: 海外31か国から124名、日本9地域から36名の高校生

教員フォーラム

参加者: Studentフォーラム引率教員40名

全国大会

参加者: 国内外のユネスコスクール関係者800名程度

ユネスコESDユース・コンファレンス

参加者: 世界各国の18～35歳のESD実践者等52名

持続可能な開発のための教育に関する拠点(RCE)の会議

参加者: 世界各国のESD実践者300名

高校生が将来作っていききたい社会についての宣言

日本チーム、ブラジルチームから各5名(生徒4名、教員1名)、計10名が参加

日本のユネスコスクール今後行うESDの推進についての宣言

青年が今後行うESDの推進についての宣言

RCEが今後行うESDの推進についての宣言

10月9日(木)～10月12日(日)

ESD推進のための公民館-CLC国際会議

参加者: 公民館・CLCの学習者等約700名

岡山コミットメント(約束) 2014

閣僚級会合及び全体の取りまとめ会合 11月10日(月)～11月12日(水)

成果

国連ESDの10年の成果の確認(DESレポート)

グローバル・アクション・プログラム(GAP)の開始

あいち・なごや宣言
GAPの具体的な実施に向けて、行動を起こすことを宣言

プログラム

全体会合

- 開全体会合: ユース出番
- 全体会合II: 高校生出番
- 全体会合III: RCE出番
- 閉全体会合

ワークショップ

サイドイベント

ハイレベル円卓会議
(閣僚級のみ参加)

参加者

国内外の多様なステークホルダー

各国代表者

※世界会議関連行事として岡山市が主催

あいち・なごや宣言

2014年11月10日から12日、愛知県名古屋市で開催されたESDに関するユネスコ世界会議の参加者である我々は、持続可能な開発に関する経済、社会、環境分野のバランスの取れた、統合されたアプローチにより、現代の世代が要求を満たしながらも、未来の世代が要求を満たすことができるように、この宣言を採択し、持続可能な開発のための教育（ESD）の更なる強化と拡大のための緊急の行動を求め、この宣言は、人々が持続可能な開発の真ただ中にあることを認識するとともに、国連ESDの10年（2005年-2014年）の成果、つまりESDに関するユネスコ世界会議及び2014年11月4日から8日に岡山市で開催されたステークホルダーの主たる会合、すなわちユネスコスクール世界大会、ユネスコESDユース・コンファレンス、持続可能な開発のための教育に関する拠点（RCE）の会議、さらに地域の大規模会合を含むその他の関連イベントや協議プロセスの審議に基づく。我々はESDに関するユネスコ世界会議の開催国である日本政府に心から感謝する。

1. 国連ESDの10年（2005年-2014年）の多大なる功績、特に国内外のアジェンダにおけるESDの位置づけを高め、政策を進め、ESDの概念的理解を深め、幅広いステークホルダーによる実質的な多くの優れた取組を生み出したことを祝し、
2. 国連ESDの10年の実施に積極的に参加した多くの政府、国連機関、非政府組織、すべての種類の教育機関・教育組織、学校の教育者と学習者、地域と現場、ユース、科学コミュニティ、学術界、その他のステークホルダー、また、10年間の主導機関としての役割を担ってきたユネスコに感謝の意を表し、
3. 2012年の国連持続可能な開発会議（リオ+20）の成果文書「我々が望む未来」に含まれるESDの更なる促進のための国際的なコミットメントを想起し、
4. 第37回ユネスコ総会において、国連ESDの10年のフォローアップとして、またポスト2015年アジェンダへの具体的な貢献として支持されたESDに関するグローバル・アクション・プログラム（GAP）が、教育、訓練、学習の全てのレベル及び分野においてESDの行動の導入、拡大を目指していることに留意し、
5. 気候変動（気候変動に関する国際連合枠組条約第6条及びドーハ作業計画）、生物多様性（生物多様性に関する条約第13条とその作業計画及び関係する決定事項）、防災（兵庫行動枠組2005年-2015年）、持続可能な消費と生産（持続可能な消費と生産に関するプログラムの10年枠組の持続可能なライフスタイルと教育プログラム2005年-2015年）、児童の権利（児童の権利に関する条約第24条(2)、第28条、第29条(1)）、その他の分野における政府間合意において認められているように、ESDを持続可能な開発の実施のための極めて重要な方法として再確認し、
6. グローバルEFAミーティング2014にて採択されたマスカットアグリーメントにおける目標及び持続可能な開発目標（SDGs）に関する国連総会のオープン・ワーキング・グループによって提案されたSDGsの目標の中にESDが含まれたことよって示されているように、包括的な質の高い教育と生涯学習に不可欠で、変化させる力を持つ要素として、また持続可能な開発を可能にするものとしてESDの国際的な認識の高まりを歓迎し、
7. 第195回ユネスコ執行委員会で承認されたユネスコ／日本ESD賞の創設を評価し、

我々参加者は、

8. 批判的思考、システム思考、分析的問題解決、創造性、協働、不確実なことに直面した際の決断、また、国際的な課題がつながっていることへの理解及びこの自覚から生じる責任のような、地球市民そして地域の文脈における現在及び未来の課題に取り組むために必要な知識、スキル、態度、能力、価値を発達させることで、学習者自身及び学習者が暮らす社会を変容させる力を与えるESDの可能性を重要視し、
9. ESDは、すべての国、特に小島嶼国や低所得国のような最も脆弱な国のためになる公平でより持続可能な経済、社会の実現を目的として、先進国と発展途上国の両方が貧困撲滅、不平等の縮小、環境保護、経済成長のための努力の強化に取り組む機会であり、責任であることを強調し、

10. ESDの実践は、持続可能な開発への文化の貢献、平和の尊重、非暴力、文化多様性、地域と伝統的な知識、先住民の英知と実践、さらに、人権、男女の平等、民主主義、社会正義のような普遍的原則の必要性と同様に地元、国内、地域、世界の文脈を十分に考慮するべきであることを重視し、
11. 関係する全てのステークホルダーが、GAPの開始に際してのコミットメントへの具体的な貢献を通じて表明したESDへの参加に感謝し、
12. ESDの五つの優先行動分野である政策支援、機関包括型アプローチ、教育者、ユース、地域コミュニティにおいて、フォーマル、ノンフォーマル、インフォーマルな環境における、包括的な質の高い教育及び生涯学習をとおして、GAP開始のモメンタムの構築及び維持を約束し、
13. 政府、政府が加盟する機関・ネットワーク、市民社会団体・グループ、民間企業、メディア、学術研究コミュニティ、教育・研修機関及びセンターをはじめ、国連機関や二国間・多国間開発機関、その他の種類のすべてのレベルの政府間機関を含む、関係する全てのステークホルダーが、相乗的な方法で、a) 明確なゴールを設定し、b) 活動を開発、支援、実施し、c) 経験を共有するためのプラットフォーム（ICTを基礎とするプラットフォームを含む）を構築し、d) GAPの五つの優先行動分野におけるモニタリング及び評価の方法を強化するよう求め、
14. ユースをキーとなるステークホルダーとして巻き込み、尊重しながら持続可能な開発のための意志決定及び能力育成を強化するために、科学・政策・ESDの実践のインターフェイスにおいて、特に教育省やESDに関する全省庁、高等教育機関及び科学やその他の知識コミュニティなど、全ての関係するステークホルダーが部門や分野の境界を越えて共同的で可変的な知識の生産、普及、活用、イノベーションの促進に従事するよう促進し、
15. ユネスコ加盟国の政府に以下のような更なる取組を求める。
 - a) 教育の目的、教育を支える価値をレビューし、教育政策とカリキュラムがどの程度ESDのゴールを達成しているかを評価し、システム全体としての全体的アプローチ及びマルチステークホルダーの協力、教育セクター、民間企業、市民社会及び多様な持続可能な開発分野に従事する人々のパートナーシップに特別な注意を払いながら、教育、訓練、及び持続可能な開発政策へのESDの統合を強化し、教員や他の教育者の教育、訓練、職能開発が十分にESDを取り入れることを確保し、
 - b) 特にGAPの五つの優先行動分野に沿った国内及びサブナショナルレベルのフォーマル及びノンフォーマルな教育・学習の両方に必要な機関の能力を構築するなど、政策を行動に移すために実質的な資源を配分、結集し、
 - c) 第一にESDを教育の目標として残し、分野横断的なテーマとしてSDGsに取り入れることを保証し、第二にユネスコ世界会議（2014年）の成果を2015年5月19日から22日に韓国・仁川で開催される世界教育フォーラム2015において考慮されるよう保証することでポスト2015年アジェンダ及びそのフォローアッププロセスにESDを反映、強化させる。
16. ユネスコ事務局長に以下のことを求める。
 - a) GAPの実施のためのユネスコのロードマップの枠組みの範囲で、政府、他の国連機関、開発パートナー、民間企業、市民社会と協力し、ESDのグローバルリーダーシップを提供し、政策の共同作用を支援し、ESDに関するコミュニケーションを円滑化し、
 - b) ESDを実施するための新たなモメンタムを構築し、パートナーシップを活用し、ユネスコクラブ及びユネスコクラブ協会と同様、ユネスコスクール、ユネスコチェア、ユネスコが支援するセンター、生物圏保存地域及び世界遺産の国際ネットワークなどのネットワークを活用、動員し、
 - c) ESDの資金を含む適切な方策を保証する重要性を支援する。

ESD推進のためのユネスコスクール宣言 (ユネスコスクール岡山宣言)

私たちにとっての ESD

私と、あなた、学校みんな、地域みんな、世界のみんなへとつながっていく。
だから、私は、見えないあなたと励まし合い、支え合える存在であるという尊さに気づき、
何か行動したくなる。
教室から校庭へ、校庭から地域へ、地域から私の国へ、私の国からあなたの国へ、
そして世界へ、地球へ、私の世界は広がっていく。
だから、私は、どこの場所にもかけがえのない宝が息づいていることに気づき、
何か行動したくなる。
今と、過去とのつながり、明日とのつながり、遠い未来とのつながり。
今の私は過去や未来とつながっていく。
だから、私は、この大きな時間の流れのなかで、たいせつな責任を負っていることに気づき、
何か行動したくなる。

(児童の変容を児童の視点から叙述したユネスコスクール教員による「詩」にもとづく)

ESD のビジョンを取り入れることで、子どもたちの学びのなかに、さまざまなつながりが生まれます。他者、世界の多様性、いのちある地球、自然、科学・技術、文化、過去および未来などと自己とのつながりです。こうしたつながりのなかで、学びは深まり、子どもたちの心のなかに生き続け、持続可能な未来を創造する力となります。その力は行動と協働を呼びおこす力です。そして、問い続け学び続ける力です。

日本のユネスコスクールによる「国連 ESD の 10 年」の成果

日本におけるユネスコスクールは、1953 年に、ユネスコが世界の学校でその理念を実現する事業を開始した当初から日本の学校が参加して、今にいたります。日本では、学習指導要領や教育振興基本計画などに持続可能な社会の構築や ESD 推進の観点が盛り込まれています。日本ユネスコ国内委員会「ESD の普及促進のためのユネスコ・スクール活用について(提言)」(2008 年2月)によって、ユネスコスクールは、ESD推進の拠点として位置づけられました。ESDのビジョンと、ユネスコスクールの目的に共感した教師と学校を支援する人々や組織によって、ユネスコスクールは飛躍的に仲間を増やし、現在国内 807 校を数えます。全国のユネスコスクールによって、学校教育における ESD の裾野は大きくひろがりました。「国連 ESD の 10 年」を通して、ユネスコスクールでの ESD には、多くの成果が見られるようになりました。

各ユネスコスクールの ESD 実践では、平和、環境、生物多様性、エネルギー、人権、国際理解、多文化共生、防災、文化遺産、地域学習などを入り口として、取り組むべき課題を、体験的・探究的に発見し解決していくためのプロジェクトやカリキュラムが開発されました。各教科のなかだけでなく、総合的な学習の時間等を有効に活用しそれらを関連づけながら、ESD は実践されてきました。

地域の特徴を活かした ESD 実践を通じて、子どもたちは、地域社会が人と人とが支えあって成り立っていることを深く理解し、地域の良さと抱える課題を知り、未来に伝えるべきこと、あるいは変革すべきことを地域の人々

とともに考え、行動に移すことを学んできました。さらに、地域社会が抱える課題と、国やアジア、世界の課題とはつながっており、地理的な隔たり、世代や立場の違いを超えて協働することで持続可能な未来をつくることができるという認識が共有されつつあります。

子どもたちは、地域社会や世界のさまざまな課題を自らの問題ととらえ、協働的に学ばなかに「生きる力」を育み、未来社会の担い手であるという意識をもつことができました。ESDによる体験を伴う理解と科学的な考察は、批判的な思考力と判断力、コミュニケーション能力を鍛え、自ら、また協働して、持続可能な未来をつくるための行動に役立つことが理解されました。

ESD のビジョンに導かれた教師の意識に変容が生まれました。知識を伝達するばかりではなく子どもとともに学びながら、子ども中心の学びをデザインし、コーディネートする教師の姿勢は子どもたちを変え、子どもたちが変われば学校が、学校が変われば地域が変わるという実例が見られるようになりました。社会に対する無関心、自己肯定感の低さが問題とされる日本の子どもたちの内なる力を発揮させ、自信の獲得につながりました。そして、学校間の交流によって、より深い学びが実現してきました。

さらに、学校と教育委員会、保護者や地域の人々、NGO/NPO、企業、大学、専門機関とのあいだに連携が深まり、ESD実践の質を高めてきました。また、世代を超えて学ぶことの喜びを確認することにつながりました。

2011年3月11日に起こった東日本大震災は甚大な被害をもたらしました。しかしESDが根づいていた学校や地域では、そのことが被災からの立ち直りに大きく貢献し、国内外のネットワークを通じて被災地に多くのあたたかい支援の手が差しのべられました。地域の再生と創造にむけてESDを基本理念とした創造的な復興にむけた教育が行われつつあります。

日本のユネスコスクール: 私たちのコミットメント(誓い)

私たちは、日本の教育を変えていく原動力としてESDをこれからも進めていきます。

- 私たちは、持続可能な未来のために、身近な地域に貢献するとともに、グローバルな視点に立って行動する次世代を育みます。
- 私たちは、平和、環境、気候変動、生物多様性、国際理解、多文化共生、エネルギー、人権、ジェンダー、防災、文化遺産、地域学習、持続可能な生産と消費等、学びの入り口やテーマが何であれその先に地域、国、アジア、世界の平和と持続可能性を見据えて、地域の人々をはじめ多くの人たちと協働しながら、つながりを意識した教育を実現します。
- 私たちは、ESDの本質を理解するとともに、ESDの魅力を広く社会に伝えるため、児童生徒の変容、教師の変容、学校・地域の変容を明確に示します。
- 私たちは、気候変動、生物多様性、防災、持続可能な生産と消費など、国境を越えたグローバルな課題について理解し、解決方法をさぐり、解決に向けてともに取り組んでいく国内外のユネスコスクール、特に近隣のアジア諸国のユネスコスクールとのテーマ学習・協働学習に取り組みます。
- 私たちは、互いに学びあい、活動の質を高めていくために自発的に組織されるユネスコスクール同士の全国ネットワークをつくります。そして、ユネスコスクール間の交流や協働を推進し情報交換・活用の仕組みを充実させます。

- 私たちは「変化の担い手」として子どもと教師を捉え、地域社会における持続可能性の実践者となるように努め、他の学校、社会教育・生涯学習機関、NGO／NPO、自治体など多様な主体とともに、持続可能な地域づくりに貢献します。
- 私たちは、さまざまな主体との対話と連携を通して、「国連 ESD の 10 年」の後継プログラムである「ESD に関するグローバルアクションプログラム(GAP)」の5つの優先行動分野をつないでいきます。
- 私たちは、世界 181 の国にひろがるネットワークの一員として、ESD に取り組み、持続可能な未来をともに築いていくことを、そしてそのために、さまざまな交流と連携の機会をつくって学びあうことを、日本と世界のユネスコスクールに対して呼びかけます。

学校によるさらなる ESD 推進:ユネスコスクールからの提案

ESD の推進拠点としてのユネスコスクールの経験、成果と課題にもとづき、私たちのコミットメントをより良く実現するために、また、ESD をユネスコスクール以外の学校へ、地域へと持続的にひろげていくために、ユネスコスクールとすべての学校、その支援者に向けて、以下を提案します。

- 教師や子どもたちの主体的な発意やアイデアを尊重し、創造的な授業づくり、教科横断的で探究的な教育課程づくりによって学校全体で ESD をすすめる。
- ESD を通した子どもたちの学びの質や育ちを内発的に評価する方法など、ESD の成果をモニタリング・評価するための方法を検討し、共有する。
- 各学校のESDを持続的に支える政策や制度をつくり、また校長のリーダーシップがESDの特徴をいかした形で発揮できる基盤を整備する。
- 教師や教育関係者が自らの専門性を生かしながらローカル／グローバルな視野で持続可能性についての認識を深めるための研修制度を拡充させていく。
- 地域において、学校を含む多様な主体が持続可能な社会づくりに参加し連携・協働できる仕組みをつくる。

子どもたちはどの子も無限の可能性を秘めています。その可能性を輝かせることができるよう質の高い教育を行っていくことは、世界中すべての教師に共通する願いです。さらに子どもたちを見守る保護者や地域の人々の願いを共有し、平和で持続可能な未来をつくるために、ESD をともに推進していきましょう。

2014 年 11 月 8 日

ユネスコスクール世界大会-第6回ユネスコスクール全国大会(岡山市)-参加者により採択



UNESCO World Conference on Education for Sustainable Development
Stakeholder Meeting

UNESCO ESD YOUTH CONFERENCE

7 November 2014 • Okayama, Japan

ユース・ステートメント

このユース・ステートメントは2014年11月7日に日本、岡山市にて開催されたユネスコ ESD ユース・コンファレンスにて、ESDに関するグローバル・アクション・プログラム (GAP) の趣旨に沿う形で2014年以降ESDを加速するため、ユースからのビジョン、コミットメントそして提言をまとめ採択されたものである。

本ステートメントは、世界中の何千もの若者たちを代表してこの会議に出席した50人のユース代表の声を反映しているだけでなく、会議前に行われたオンライン・ディスカッションを通じて集められた100名以上のユースの声も反映されている。

持続可能な未来に向けたビジョン

このステートメントを読むにあたって、まず心の中にあなたが愛している人、例えばあなたの子どもやその子ども、そしてその後続く子どもたちのことを思い浮かべていただきたい。そして想像して欲しい—今日の私たちの決意が、周りの一人ひとりにどれだけのインパクトを与えるのかということ。そして、さらに考えてみてほしい—このユース・ステートメントが彼らの、そして私たちの生命にとってのもつ重要性や価値を。

私たちのステートメントは、広くこの世界的な呼びかけに応えてくれた世界中の何千ものユースの声やビジョンから生まれた力強いものである。例えば、マダガスカル環境教育者の経験や、バーレーンで行われている創造的なバイオミクリーのアプローチ、タイの先住民の若者の支援や、モルドバでの先進的なゲームを用いたプラットフォームなど、様々な活動に取り組む若者の声を反映している。私たちのこれまでの道のりは様々ではあるが、目指しているものは一緒であると感じている。私たちは異なる背景をもち、国籍も肌の色も、宗教も信条も多様ではあるが、私たちのビジョンは一つであり、私たちの声はこの一つのステートメントにまとめられた。

私たちは共に、持続可能で、強靱かつ平等な社会、一人ひとりが自らの目標に向かい進んでいける機会のある世界の実現に向け立ち上がる。私たちは、持続可能な開発のための教育（ESD）がこのビジョンを実現するために根源的なものであると強く確信している。ESDは社会に活力を生み出す方法であり、私たちの直面する深刻な持続可能性に関する課題を機会に変えていくものであると信じている。ESDは教育に欠かすことのできない要素であり、ESDなしでは前進できないのである。

若者たちは、ESDのアジェンダを前に進めていく上で欠かせない役割を果たす。私たちの決意と行動が、私たちの現実や未来を形作っていくことになるのである。私たちはこれをリーダーとして進めていく強い意志を持っているが、私たちだけでも、またあなたたちだけでも、実現することはできない。**私たちは共に手を取り合い、地球上の若者たちを支援し、動員していく必要があるのだ！** このステートメントは、そのための提言を、ユネスコの提唱するESDに関するグローバル・アクション・プログラムの趣旨に沿う形でまとめ、提案するものである。

私たちは、ここまで私たちを導いてくださった先駆者の方々の取り組みと努力に対し感謝の意を表すると共に、一刻も早くこれらの提言に対して広範かつ多様なステークホルダーが協力し、共に動き出してくれることを求める。私たちの多くにとっては、この道のりは始まったばかりであり、今まさに始めようとしている方々にも共に歩いてほしいと望むのである。

提言

1. 政策的支援

- a) **政策の立案、実行、および評価におけるユースの積極的な関与を確実なものとしていくこと。** ユースは教育におけるどの分野、段階においても重要なステークホルダーとして認識されるべきである。それによりユースはESDの強化に向けた政策の形成に貢献できるようになる。
- b) **ESDに関する政策に早急に取り組み、包括的かつ公平で、性別にも配慮したものとすること。** 政策は、持続可能な開発に関する多面的要素を考慮したものであり、かつ今ここで持続可能な開発を実現すべく即座の行動を促すべきである。
- c) **関係するあらゆるステークホルダーは、ESDのための変革推進者であるユースの強化のために資源を割くこと。** 政府、市民団体、青年団体やコミュニティおよび企業は、この宣言にある提言とESDに関する政策の実行のために、金銭、技術および人材などの資源を提供するべきである。

2. 機関包括型アプローチ

- a) **教育機関や政府は、持続可能性に向けての若者たち主導のプロセスに対して施設支援、資源の提供、そして活動への正当性を与えること。**これについては下からの自主性と上からの指揮の両面が必要である。仕組みとしては、ユース主導の活動に対し、資金の支援、制度的統合、働くスペース、権限および正当な評価、そして必要な訓練の提供が含まれる。
- b) **持続可能性に向けた取り組みの協働を加速させること。**教育機関は、生徒、学生、職員、地域コミュニティなどが一緒に取り組むことに対して支援するべきである。そのためにも関係者内で共有されるビジョンやアイデンティティ、出会いの場やプロジェクトが必要となる。
- c) **ユースを対等なパートナーとして認め、教育機関の運営をより持続可能性を考慮したものへと変化させること。**教育機関は教えていることを実践し、より環境に配慮した形にすべきである。ユースは、職員と協働し、キャンパスにおけるエネルギーや食料、水、ゴミ、建物、生物多様性などの問題を含む環境問題について意思決定を行い、変革推進者となるべきである。

3. 教育者・トレーナー

- a) **全ての市民がESDのためのファシリテーターとなり行動する可能性と責任を持っていると認識すること。**何十億といる人々に対して持続可能性に関する課題と機会について教えるためには、これまでの伝統的な教育機関の枠を超えた人々を教育者や指導者として巻き込む必要がある。ユース、専門家、実践者、そしてあらゆる階層・分野の市民をESDを広める教育者または指導者として動員するべきである。
- b) **ESDのトレーナーや同世代の教育者としてのユースの能力を高めること。**ユースはESDに関して同世代の仲間、両親、友人、そして地域の多くの人々にESDを広められるよう、力をつけるべきである。これには指導専門家および教育機関からの特別な配慮と支援が必要である。
- c) **ESDが扱う課題にユースが関心を持つよう、現役の教育者や指導者の能力を高めること。**教師、教育者および指導者は、ESDに関する教育の新しい手法、技術およびアプローチを学ぶ必要がある。これにはオンラインを通じたトレーニングや、フォーラムの開催、ツールの開発や補助金に加え、仲間同士で学べる環境やそのための支援ネットワークなどが必要である。

4. ユースのための革新的な学び

- a) **教育機関と政府はユースや教育者が革新的な学びのアプローチを試みることを支援し、促進すること。**ESDは従来の教育とは異なるものである。従ってこれまでとは異なる技術を用いた試みや、創造的かつ実験的な手法が必要である。それにより型にはまった考え方を破り、ユースを教育するための最善の道を見つけることができる。
- b) **ESDを推進するにあたり、学習プロセスの効果と効率性を測るためにモニタリングと評価を行うこと。**教育機関、政府、そして教育者は異なる組織や地理的特徴において何がもっとも有効かを特定するためにESDの多様な試みを評価するための指標、枠組み、そしてプロセスを開発するべきである。
- c) **効果的な学習法のインパクトを他の地域や組織にも拡大していくこと。**効果的な学習法は、地理的環境を越え普及させ、規模を拡大し、主流となる政策に反映するためにも特定の状況に限定するのではなく、体系化する必要がある。専用の補助金やその価値が正しく評価されること、またハイレベルな支援やリーダーシップが以上3つの提言の実現に向けた鍵となる。

5. 地域コミュニティ

- a) **コミュニティ主導型のESDの取り組みにおいてユースの声を尊重すること。**国際機関、政府、市民団体はコミュニティにおいてESD活動を推進する際にユースの声に耳を傾けるべきである。このために、ユースはESDに関連するコミュニティの問題とその解決策の特定、デザイン、実行に関わる必要がある。
- b) **地域コミュニティにおける若者主導のESDの取り組みを支援すること。**ESDは地域コミュニティにおける経済的成長と生態系の保護のための重要な基盤を作るものである。この潜在力を生かすためには、ユース主導のESDの取り組みに対して、教育機関、企業、市民団体や政府などからの指導と助言、そして資金援助が必要である。
- c) **ユースが現実の状況に関わり、そこから学ぶことを促進すること。**地域コミュニティはESDによってプラスの影響を受けるはずであり、学びやインスピレーションを与える場となるべきである。そのためには社会奉仕の学習や学際的な教育や研究、リビングラボやラーニングセンター、オンライン教育などを推進していく必要がある。

6. 持続可能性に関する課題と機会

- a) **全てのユースが持続可能性に関する課題の複雑さと不確実性、そしてとそれに伴う機会について批判力をもって理解すること。**ESDに関して効果的な行動を起こしていくためには、若者たちは持続可能性に関わる問題の要因となっている、複雑に絡み合った社会文化的、経済的、技術的システムと世界の動向について理解する必要がある。
- b) **ユースが、より持続可能な未来のビジョンを作れるように支援すること。**対話と交流を促すことで、若い学び手がより持続可能な世界に向けて斬新かつ、急進的、挑戦的なビジョンを描けるよう支援する必要がある。これらのビジョンはユースが主体的に持続可能性に取り組むための刺激と論理的根拠を与えるものとなる。
- c) **学生たちに自らの生活や学校、地域や国を変革していく能力を身につけさせること。**持続可能性へのビジョンを実現するには、ユースは自分自身や社会の持続不可能なシステムを変革するために必要な知識、スキル、そして価値観を身につける必要がある。教育者や仲間たち、そして教育機関からの支援、フィードバック、そして正当な評価は、この道のりにおいて、自信とやる気を持ち進むために必要不可欠である。

7. 女性や社会的に不利な立場に置かれている人々

- a) **ESDを推進する教育カリキュラムおよび政策を、社会的に不利な立場に置かれている人々の平等と公平の充実に向けたものとする。**社会的に不利な立場に置かれている人々は社会的に弱く、性別や年齢、能力、肌の色、宗教、収入、地理的出身地や性的指向といった様々な理由によって差別を受けているため、ESDの活動においても手が届きにくい。
- b) **ESDにおいて、社会的に不利な立場に置かれているグループに属するユースの価値観や経験、見方を認識すること。**社会的に不利な立場に置かれているグループに属するユースは、主流となっている教育や恵まれた学生たちにとって、ユニークで意義深い価値観や経験、ものの見方を提供してくれる場合がある。それらを共有するためには、異なる文化、宗教、世代間の対話を通じた相互理解と受容が必要である。
- c) **社会的に不利な立場に置かれているグループに属するユースが安全かつ安心して学べる身近な場を作ること。**社会的に不利な立場に置かれているグループに属するユースがESD活動に参加し、活発に行動するようになるには、いくつかの特殊な条件を満たす必要がある。そのためには、ステレオタイプのイメージを払拭し、経済的支援をすると共に、交流を演出することなどが必要である。

8. ソーシャル・アントレプレナーシップ (社会起業)

- a) **ESD の目的に資するソーシャル・アントレプレナーシップの重要性を認識すること。**社会起業は、仕事を創出するほか、若者が ESD を学校以外の環境で学んだり、または自身の ESD 活動をはじめたり、地域コミュニティに良い効果をもたらすことを可能にするものであり、政府や教育機関は、それに気づくべきである。
- b) **新しい社会起業の助けとなる政策や補助金を創設すること。**社会起業を通じた ESD の促進のために、政府や金融機関は補助金や税金の控除、奨学金や指導・助言の仕組みといった、若い起業家を支援する仕組みを作る必要がある。
- c) **社会的企業を立ち上げ、経営していくために必要なユースの能力を育てること。**教育機関や企業、そして市民団体は若い起業家に必要な知識、意識そしてスキルを提供する必要がある。そのためには専門のコースの開設や、仲間同士のコーチング、メンタリング、起業時助成金やオフィスの提供を始めとする様々な支援が必要となる。

ユースがユースを支援し、動員していくために

世界各地で、ユースが彼らの住む地域や国の持続可能性の推進に対してリーダーシップを発揮し、仲間を動員する姿が増え始めている。このプロセスにおいて、若者たちは、持続可能な未来を創るためには、世界中のユースが手に手を取り合い共にビジョンを創り、決意を示し、行動することが必要であると気づき始めている。従って、ユースがユースを支援し動員することは、若者たちの知識、エネルギー、創造性を ESD の推進に活かす、またとない機会を提供しているのである。

ESD の若きリーダーたちは、同様の地域課題を抱え活動している他のユースにとって勇気を与える素晴らしいロールモデルになりえる。そしてこれは、仲間同士の助言や知識やスキルの共有、そして自己表現や実践のためのオープンかつ安全なプラットフォームの創設によって可能となる。

ユースの動員を成功させるために重要な要素となるのは、いかに信頼を築き、対立を減らすかということである。国際的な異文化間の対話をユースの間で奨励することにより、友情関係を育み、交流が生まれ、文化や世代、世界観の違いを超えて相互理解や協力体制を育むことができる。ユースが多様性を機会として捉えることこそ、地域レベル、国家レベル、そして地球レベルにおける ESD の推進につながるのである。

ユース同士のエンパワメントの活動は、彼らが彼ら自身の物語を伝え、周りを巻き込んでいくことで、大胆かつ創造的なものになる可能性を秘めている。そしてこのような活動においてこそ、他のステークホルダーはパートナーとして、若者たちの創造性、熱意、ひたむきさを活かしてほしい。そうすれば、ユースによるユースのための取り組みは成長を続け、メッセージを広め、より大きなインパクトを生むことができるであろう。

私たち、世界のユースは、同世代の若者たちを支援し、巻き込んでいくことに対して責任を持って取り組んでいく。私たちの社会と環境に対して最大限に良いインパクトを生み出すために、若者たちの推進力を活用すべく全力を尽くす。そして、変革者として、今日の世界をより持続可能な未来へと変えていくために、自分たちの役割を果たしていく所存である。

2014年11月7日採択

世界は、地球的規模の諸問題と各地域における諸問題を解決しようと多大な努力を続けてきました。戦争、紛争、環境、文化、エネルギー、食について着実な進歩を遂げてきましたが、今日にいたっても私たちはまだ多くの問題に直面しています。そのため私たち ASPnet の高校生は、様々な地域の背景を考慮しつつ、世界の重要な諸問題について更に知るために、学び合いの努力をしています。

2005年に始まった「国連 ESD の 10 年」は最終年を迎えました。この 10 年間、私たちは、学び合いの大切さを知り、地球的諸問題に共同して立ち向かう姿勢を強めることを学びました。これは、世界の持続可能な発展の成功には ESD が必要欠くべからざるものであるという明確な信念のもとに達成されました。その結果、世界は私たち若者世代によるこれら諸問題への参画を、これまでにも増して期待しているように見えます。

2014年11月の今日、新しい ESD 世代の代表として世界 32ヶ国から私たち高校生はここ日本の岡山市に集いました。「日常生活と社会において持続性を阻害しているものは何か」、「持続性を促進するために重要なものは何か」というテーマのもとで、私たちは身近な問題から話し合いを始めました。

その後、発展とは何かという話し合いにより、私たちはその多様性を確認しました。

私たち高校生が先頭に立って、環境、文化、伝統、そして世代や国を越えて人を尊重していくという意見が述べられました。私たちは責任あるかたちで、様々な目に見える活動により出来る限りその輪を広げていくことが必要です。またそのためには、一人ひとりが自分の生活の中で小さな行動から始めることが大切です。たとえば、友達との協力やリサイクル運動、ボランティア活動への参加をとおして、ESD に興味・関心を持てるような楽しい学びの場をより多くの人に紹介していくことができます。そしてこのことは、若者の独創的な企画によって ESD や若者世代への興味を喚起することにもなるでしょう。私たちは共に行動できることがたくさんあることに気付きました。

これらのディスカッションに基づいて、高校生である私たちが現在と未来においてできることとなすべきことを模索して意見を交換しました。その結果、合意にいたったことは次の 5 点です。

1. 自分たちの力は無力ではないにせよ限られています。しかし共に助け合い、持続可能性について学び合う機会を大切にして、ESD について発信していきましょう。
2. 私たち高校生は、一人ひとりが地球に生きる一員としての自覚を持ち、環境と周りの自然を意識していきましょう。長期的な視点にたつて、学校で ESD が教えられるようになるために責任ある行動を明確にとりましょう。
3. 私たち一人ひとりが責任をもって互いのつながりを育てることで、様々な生活様式と文化と意見を共有して尊重しましょう。そうすることで、学び合いと知的な刺激を促進しましょう。
4. つながり合いとコミュニケーションを更に学ぶことで、平和と人権と、教育によって個人が成し遂げられるものを知りましょう。このことには男女平等と人権と平和と啓発が含まれます。これら全てにおいて、私たちは教育の果たす重要な役割を意識しましょう。
5. 上記の全てを私たち全員が意識して、個人の明確な目標を明らかにするよう全力を尽くしましょう。